

青山会 会報五号

INDEX

・会長挨拶	1	・OBより	7
・学部長より	3	・在校生より	10
・80周年記念式典	5	・研究室のいま	12
・新任教員より	6	・編集後記・連絡先	15



青山会会員の皆様、

農学部獣医学科同窓生の皆様

青山会会長 深町 輝康 (V16)

皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍の事と拝察申し上げます。また日頃より青山会活動にご協力、ご支援賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

青山会会誌第5号は、ご寄稿頂きました会員各位の皆様には、ご多忙中にもかかわらず貴重な、最先端の活動など、ご寄稿頂き、充実した誌面を作ることができました。心より御礼申し上げます。又青山会事務局の方々の多大なご尽力を頂き、感謝申し上げます。

さて、今年2023年は新型コロナの出現から3年余りが経過しました。5月、政府は新型コロナ感染症への対応を、季節性インフルエンザと同等の「5類」に移行すると発表しました。しかし政府は「幅広い医療機関による自律的な通常対応へ移行しつつ、冬場の流行性感冒に備え入院体制の確保と、引き続きコロナ第8

波への備えの必要性を国民」*1へ呼び掛けています。

ウクライナ、ロシア戦争は和平への見通しがありません。またイスラエル、ハマスの新たな戦いが始まりました。戦争のない平和な世界を願って已みません。

青山会は2018年3月、獣医学部第1回生の卒業式と同時にスタートしました。しかし、コロナ騒動により足止め状態になり、満足できる活動が出来ないまま4年が経過しました。第1回青山会総会が2022年9月に開催され、役員改選となりましたが後任役員の選出が出来ず、又2024年の獣医学部創立80周年記念事業を控える状況を鑑み、現役員の続投が承認可決されました。

山口大学獣医学部は進化発展を続けています。獣医学部のホームページ*2をぜひ閲覧してください。様々な角度から山口大学獣医学部の今を知ることが出来ます。創立後80年の歴史、鹿児島大学との共同獣医学部の誕生の背景とその目指すところ、また各研究室のスタッフ紹介、研究実績が紹介され、最先端の研究施設や医療機器などが画像として手軽に閲覧、理解できます。

獣医学部を目指す私たちは動物が好き、あるいは伴侶動物（犬、猫など）の病気を治したいという様々な思いで入学しました。そして勉学が進むにつれ、（分け入っても、分け入っても青い山が続く）果てし無い修業が続きます。私たちの使命は多岐にわたります。動物性蛋白質の提供などの産業動物、口蹄疫鳥インフルエンザなど家畜衛生業務、伴侶動物に対する高度先進医療の提供、野生動物の保護、人獣動物感染症対応など公衆衛生、分子生物学や創薬への関りなど獣医学

領域の広さとまたその奥深さに驚愕します。

グローバル化が進む世界状況は新型コロナウイルス感染症騒動や鳥インフルエンザの猛威など、獣医師に課せられた責務は重大で、喫緊の課題でもあります。そのような状況下で、2019年獣医学部はEAVEA^{*3}の認証を取得しました。母校の教育水準は欧米並みになりつつあります。グローバル化はまた海外の大学(獣医学部)との交流が進み、現在獣医学部はインドネシア、タイ国とは定期的な相互の交流があり、またケニア・ナイロビ大学獣医学部とは今年交換留学制度化スタートしました。

積月性先生^{*4}は、獣医学部同窓生よ「人間至る所青山あり」の心意気で大きく勇躍しなさい。また福沢諭吉先生は、先輩は後輩を鍛え(半学半教)、前人未到の新しい分野へ突き進め(自我作古)、そして在学生、教職員、卒業生は一致団結せよ(社中協力)と、その志を慶應義塾建学の精神^{*5}に述べられ、我々を鼓舞されています。

本年2024年母校は創設80周年を迎えます。10月、記念式典、祝賀会が開催されます。母校への感謝そして母校の更なる発展を祈念し、この祝賀会を盛大に祝いたいと思います。たくさんの卒業生、同窓生の参加をお待ちしております。

参考資料

*1 「国民への呼びかけ」 :

<https://www.mhlw.go.jp/content/001147042.pdf>

*2 獣医学部ホームページ :

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/>

*3 EAVEE :

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/topics/202003EAVEE.html>

*4 積月性 :

https://www.city-yanai.jp/site/kanko-shisetsu/gesshotenji_kan.html

*5 福沢諭吉 :

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/philosophy/>



令和5年度

共同獣医学部の近況報告

共同獣医学部長 度会 雅久

山口大学共同獣医学部同窓会・青山会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

会員の方々には、日頃から本学部の教育研究にご理解とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。簡単ではございますが、本学部の近況についてご報告させていただきます。

共同獣医学部は設置から10年が経過し、本年3月には六期生を輩出し、現在12年目を迎えているところとなります。本年5月8日には新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行となり、コロナ以前の活動状況に戻りつつありますが、引き続き、「十分な換気」、「こまめな手洗い・手指消毒」などの基本的な感染防止対策を励行したうえで授業や実習を行っています。

共同獣医学部の主な取り組みとしては、令和2年度に採択された文部科学省「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～」において、ナイロビ大学と本学との間で学生交流を行いました。昨年度、1期生及び2期生として、受入、派遣ともに8名ずつの学生が交流しました。両大学の学生が混じって英語でコミュニケーションを取りながら実習を行いますので、双方の学生にとってはグローバルな感覚を身に着けるきっかけとなりました。今年度は3期生として、ナイロビ大学から4名、

本学から6名の学生を受入・派遣する予定です。

インドネシアの獣医系大学と山口大学共同獣医学部・共同獣医学研究科および日本の獣医系大学の教育・研究交流を図るため、2017年から始まったAJIV(Association of Japan - Indonesia Veterinary Education)シンポジウムも7回目となりました。コロナ禍の中、過去3回はオンラインで開催されていましたが、主催大学であるインドネシア Hasanuddin University において対面形式で2023年2月11日(土)に開催されました。本シンポジウムは、日本とインドネシア双方の教員の共同研究関係を確立して発展させること、インドネシアにおける次世代の教員候補者が、日本において学位取得するための協力関係を築くことを目的として設置されているため、Deans meeting では、学生交換留学プログラム、相互教育システム構築などについて話し合わせ、今後も協力関係を進展させていくことが確認されました。文部科学省デジタル活用教育高度化事業(大学改革推進等補助金)「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択され、ウィズコロナ時代に適合したオンラインでの双方向型 Hands-on (実際に手を動かす) 実習システムとして、透過型ゴーグルと5Gモバイル技術を用いて、遠隔地においても3D映像として描出できる「5Gモバイルおよび次世代MR (Mixed Reality, 複合現実) 融合技術」をNTTドコモ株式会社と共同で開発しました。教育分野での5GとMRを活用したこの取組みが、実証的かつ先駆的な取り組みとして評価され、「グッドプラクティス・アワード」にてNTTコミュニケーションズ株式会社が「奨励賞」を受賞されました。また、これらの技術を利用した、履修証明プログラム「山口大学馬予防医学実践力育成プログラム」、「山口大学馬救急医療実践力育成プログラム」も実施し、卒後教育にも力を入れております。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が今年度募集した創発的研究支援事業に共同獣医学部病態制御学講座の高野愛准教授の課題が採択されました。高野准教授の「マダニ臓器間における病原体許容能力の解明」という課題は、吸血により様々な病原体を媒介するマダニについて、病原体を許容し、維持

するメカニズムを明らかにしようとするもので、病原性が高く、ワクチンがない疾患の制御に向けた基礎的な研究といえます。本研究で得られた結果を元に、新しい予防法開発につながるイノベーションが期待されます。

第74回獣医師国家試験において、山口大学の現役受験生の合格率が全国獣医系大学（16大学）の中で第1位（94.3%）という素晴らしい結果となりました。今回の受験生は、主に平成29（2017）年度に共同獣医学部に入学した第6期生であり、2019年に取得した欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）による認証に基づく国際水準による獣医学教育の実践の取り組みと、何より学生自身の日頃からの努力が大きく実を結んだものと捉えております。

10月28日（土）に開催される山口大学ホームカミングデーでは、様々な企画が予定されています。遠方に住まわれている卒業生の方々も是非山口を再訪いただき、今後の獣医学教育に対するご意見を伺いたいと思っています。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

山口大学獣医学科 創立80周年記念事業

山口大学獣医学科は、2024（令和6）年をもちまして山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えます。その歴史を振り返ってみると、1944（昭和19）年1月に獣医学科の前身である山口高等獣医学校が吉敷郡小郡町に設置され、翌1945（昭和20）年3月に山口獣医畜産専門学校と改称されました。その後1948（昭和23）年に、戦後新設大学である山口大学へ農学部獣医学科として参加することになり、60年以上にわたり農学部獣医学科として多くの獣医師を輩出してきました。そして2012（平成24）年からは、その輝かしい歴史を引き継ぎつつ、全国で初めてとなる共同学部として共同獣医学部獣医学科が設置され現在に至っています。

このたび、山口大学獣医学科としての記念すべき創立80周年を迎えるにあたり、同窓生の皆様と慶びを分かち合い、山口高等獣医学校から共同獣医学部へと歩んできた道を振り返り、その軌跡を明らかにするとともに、今後のさらなる前進と飛躍を期し、将来の理想に向かって躍進させることは真に意義あることと考えております。

このような趣旨を踏まえて、山口大学獣医学科創立80周年記念事業を計画いたしました。同窓生の皆様におかれましては、これらの事業内容にご理解をいただき、何とぞ本趣旨にご賛同、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 開催日時：令和6（2024）年10月26日（土） 14時半～19時
- 開催場所：かめ福オンプレイス（山口市湯田温泉4丁目5-2）

1) 記念式典

- 開式：14時半～16時45分（受付開始：13時半）
- 開催場所：かめ福オンプレイス（3階・長州の間）
- 記念講演：山際 大志郎氏（衆議院議員）
林 良博氏（東京大学名誉教授）
山手 丈至氏（大阪公立大名誉教授）
添田 真吾氏（日米公認獣医師・The Humane Society of New York）

2) 記念祝賀会

- 開式：17時～19時（受付開始：16時）
- 開催場所：かめ福オンプレイス（2階・ロイヤルホール）

3) 80周年記念募金事業

- 令和5（2023）年9月から令和7（2025）年3月末
- ※事業詳細は下記 URL をご覧ください。



会場：かめ福オンプレイス
山口市湯田温泉4丁目5-2



山口大学共同獣医学部80周年
記念事業特設ページ
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/index.html>



80周年記念募金事業
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/contribution.html>

新任教員より



大動物臨床学分野
小野 哲嗣 (V52)

2023年1月より大動物臨床学分野の助教として赴任いたしました小野哲嗣です。2006年に本学農学部獣医学科を卒業後、山口県農業共済組合にて牛の臨床に12年間携わりました。社会人であった間にも、獣医学科の先生方の手厚いご指導を頂き、縁あって大学院に進学させて頂き、2016年に学位を取得致しました。2018年からは愛媛県今治市に新設された岡山理科大学獣医学部に助教として5年間在籍し、現在に至っています。私の地元は九州ですが、学生時代から考えると山口県は実家よりも長く過ごした場所です。5年ぶりに戻ってきて、山口は私にとっての第二の故郷だな、とあらためて実感しています。地元山口の畜産農家や大学のお役に立てる様、研究、教育、臨床に勤めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

OB より

同窓会東京支部 総会・懇親会開催報告

山口大学農学部・共同獣医学部同窓会

東京支部 事務局

吉田恵子 (V48, 旧姓：長谷川)

私は在学中、家畜病理学教室に所属し、大学院を経て 2005 年に上京しました。当初は企業で再生医療材料の研究開発に携わっていましたが、2011 年から小動物臨床に転職しました。現在は千葉県で動物病院でパート勤務をしながら往診専門動物病院を開業し、日々犬猫に癒されながら仕事をしています。その中でたまたま、同窓会東京支部の深町輝康会長 (V16) とお知り合いになる機会があり、2018 年から事務局のお手伝いをさせていただき流れとなり今に至ります。

同窓会東京支部は、関東在住の農学部と共同獣医学部の卒業生を中心に、近年は年 2 回のニューズレター発行と年 1 回の総会・懇親会を開催しています。2024 年 2 月現在の登録者数は 207 名です。母校から遠く離れた関東の地でも、世代を超えた幅広い卒業生との繋がりを持てる場として、また母校の情報を発信する場として、皆様の心が癒されたり、良い刺激を受けたりできる存在になるように活動しています。さらに、活動を通して母校や在校生の皆様を陰ながら支える力になれると幸いです。東京支部のニューズレターは青山会ホームページの会員専用ページにも掲載されていますので、ご興味のある方は是非覗いてみてください。ニューズレター Vol. 2 には、昭和 35 年の同窓会東京支部発足当時の様子も記載されています。

さて、本会の総会・懇親会は 2019 年までは毎年 11 月の最終土曜日に赤坂エクセルホテル東急で開催されていましたが、コロナ禍により 3 年間も開催が叶わず、事務局員同士が顔を合わせる機会も得られずにいました。その間に、赤坂エクセルホテル

東急は営業終了で利用できなくなってしまい、今回の新しい会場の選定には、事務局長の桑野昭先生 (V21) が奔走して下さりました。そして 2023 年 11 月 25 日、ホテルグランドヒル市ヶ谷にて、4 年ぶりに同窓会の集まりを開催する事ができました。久しぶりの開催で参加者が集まるかという不安もありましたが、コロナ禍前を上回る合計 26 名にお集まりいただくことができました。いつも足を運んで下さる方々が久しぶりの再会を喜ばれる様子が印象的でした。また、初参加の方々も多く、若手の世代 (V51～V58) にも沢山ご参加いただいた事も嬉しい事でした。そして、木曾康郎先生 (元学部長) と前田健先生 (客員教授、国立感染症研究所獣医科学部部長) もお越し下さり、大変盛り上がりました。

総会では、深町会長より、山口大学農学部の創設から現在までの歴史や、共同獣医学部の取り組み、今後の展望について紹介され、改めてその歴史の深さを感じるとともに、ソフト面・ハード面ともに近年目覚ましく発展している様子に感動しました。そして、毎回恒例の小講演会では、前田先生より「獣医学の誇り！動物由来感染症対策の立場から」と題して貴重なご講演をいただきました。重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) や急性発熱性疾患 (Yezo ウイルス感染症) などについての具体的な取り組み状況のご紹介や、動物由来感染症対策における「ワンヘルス・アプローチ」の重要性と獣医師の役割について、大変分かりやすくお話いただきました。最後に、深町先生が会長を退任され、今後は桑野会長の新体制で事務局を運営していくことが発表されました。その後の立食式の懇親会では、各々が思い思いに話に花を咲かせ、和やかな雰囲気の中、あっという間

の2時間が過ぎ盛会のうちに終わることができました。

今後も毎年、同窓会開催を予定しています。まだまだ参加者の少ない会ですので、さらに沢山の卒業生の方々にお越しいただけることを楽しみにしています。



公務員の仕事と私生活

山口県庁

大山ゆき (JV3)



共同獣医学部3期生の大山と申します。令和2年3月に卒業後、山口県庁に入庁し、今年で4年目となります。

令和2年度、コロナ禍真っ只中の年に山口県庁に入庁し、中部家畜保健衛生所で3年間勤務後、今年の4月から山口県庁畜産振興課に配属になりました。中部家畜保健衛生所で過ごした3年間、いろいろなことを勉強させていただきました。学生の頃は薬理学研究室でしたので、実習で少し牛に触れたことがあるくらいで知識も技術もなく、その状態で農林水産部に配属されたとき不安でいっぱいでした。しかし、周りの人に恵まれ、初めて学ぶことばかりの中で畜産の面白さややりがいを見つけていくことができました。私はいろいろな方とお話しをするのが好きなので、普通に生活していたらあまり関わることのできない農家の方のお話しをお聞きするのが仕事の楽しみの1つでした。この度の移動先の畜産振興課ではあまり農家の方とお話しすることはできないのですが、仕事で関わる人の数は前よりも多くなりました。様々な立場の方とお話しできるので、視野が前よりも広がった気がします。現在配属されている畜産振興課もとても雰囲気良く、楽しく毎日過ごしています。家保時代には見えなかった部分、県庁の仕事をする事で、何のための仕事かよ

り理解できるようになりました。講習会の開催や会議の主催など、裏方的な仕事も行う機会が多いので新鮮です。最初の2か月こそ慣れないことばかりできつときもありましたが、最近はその生活にも慣れ、趣味の時間を増やせるようになりました。

私は趣味でバドミントンをしています。大学時代から社会人バドミントンを始め、もう8年目になります。部活と違い、所属関係なくさまざまな方とペアを組んで試合に出れるのが一番の醍醐味です。学生時代では到底話すこともできなかったであろうレベルの方々とも交流でき、ずっとバドミントンを続けていてよかったと心から思います。下手の横好きですが、これから少しずつ精進していくつもりです。最近は新しいスポーツを始めたいと思い、職場の同期とフットサルに挑戦してみました。バドミントン以外のスポーツは全くしてこなかったもので、下手どころの話ではありませんでしたが、とても楽しかったので新たな趣味の一つになりそうです。飽き性ですが、さっそくシューズを購入したので、まずは1年くらい続けられるよう頑張ります。

これからも、仕事等で関わる方や上司、仲のいい同期や友達を大切にしながら、仕事も私生活も充実させて過ごしていきたいと思います。山口大学にも先生や同級生・後輩に会いにたまに顔を出していますので、もし見かけた際はお声がけいただくと大変嬉しく思います。

青山会のみなさま、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

在校生より

にゃんこ大作戦

5年 西本美晴



令和5年度獣医学術中国地区学会にて
西本（著者）

望まれない死を迎える大学内の野良ねこを減らしたい、との思いから2018年に結成された「山大到ゃんこ大作戦」の活動は、2023年に大きな転換点を迎えました。そこで、これまでの活動を「大学キャンパス内の野良猫数管理において奏功した事例」として、2023年の山口県獣医学会並びに中国地区大会において発表したところ、優秀演題として選出いただき、同年の12月1～3日に開催された全国大会で発表する機会をいただきました。今回は、このことに関連して、これまでのにゃんこ大作戦の歩み、並びに今後の活動方針についてご紹介させていただきたいと思います。



第59回山口県獣医学会にて

先輩方が結成し、代々受け継がれてきた山大到ゃんこ大作戦の活動も今年で5年目を迎えます。2019年3月末時点で35頭だったねこは、TNR

(Trap-Neuter-Return) が進んでいない2020年、2021年の春先に子ねこの出産が続き、2021年3月末には総数が61頭にまで増えていました。この増加傾向に歯止めをかけるべく、2021年末から2022年の春にかけて、大規模に子ねこの譲渡、成ねこの手術を進めました。

その間、新型コロナウイルス感染症の流行によって学生の課外活動が大幅に制限され、思うように活動できない時期もありましたが、みなさまからのご支援もあり、2022年度末には構内の子ねこを含む19頭が保護・譲渡され、雄ねこ20頭（全23頭）、雌ねこ全12頭の避妊去勢手術を終えることができました。現在は子ねこが生まれることもなく、次第にねこの総数は減少傾向に転じています。

これまで私たちは、ねこの数を増やさないことを最優先に避妊去勢手術を行い、エサやりや糞掃除といった、猫の世話そのものは行っていませんでした。しかし、手術の頻度が落ち着くことから、2023年度には大学の一部エリアからエサやり・糞掃除を私たちで行い、無秩序なエサやりの抑制を目指し、適切な地域猫活動に移行できるよう準備を整えています。

これまでの活動が、獣医学会で認められ全国大会に推薦いただけたことは、ひとえにこれまでの先輩方の活動と、周囲の方々のご理解とご協力あればこそと痛切に感じています。先輩方は獣医学部生としての責任を重んじ、公衆衛生の観点から、ねこのみを思いやり優先するのではなく、ねこと人との適切な距離感を常に模索しておられました。この姿勢は今でも団体の重要な指針です。今後、にゃんこ大作戦は地域猫活動という新しい活動段階へと進んでいきます。ご興味をお持ちいただけましたら、当団体のホームページをご一読いただけますと幸いです。

これからもご支援くださる皆様のご期待に添えま
すよう活動して参りますので、どうかよろしくお願
いいたします。



[Yamaneko776
\(webnode.jp\)](http://Yamaneko776.webnode.jp)



TNR の例

上: 耳カット前

下: 不妊手術・耳カット後

研究室のいま

獣医臨床病理学研究室



伊賀瀬（左），水野先生

同窓会の皆様、こんにちは。山口大学農学部獣医学科61期生の伊賀瀬雅也と申します。私は現在、山口大学共同獣医学部の獣医臨床病理学研究室で助教をしておりますので、本稿の執筆を担当させていただくことになりました。まず私の身の上話になり恐縮ですが、私は2015年に学部を卒業し、そのまま山口大学連合獣医学研究科の博士課程に進学しました。2019年に無事に博士課程を修了し、現所属である獣医臨床病理学研究室の助教のポストが空いたため、同年に教員として就職することになりました。私の出身は愛媛であり、高校卒業後から数えて早15年も山口の地に住んでおります。そのため、山口県はれっきとした第二の故郷になりました。そんな私も、今年の4月より大学のクロスアポイントメント制度を利用して日本小動物がんセンターで働いております。長年住んだ山口を離れて、埼玉県に引っ越しました。日本小動物がんセンターでは、日本の獣医学の新たな臨床研究拠点の形成を目指して、臨床試験とネットワークづくりに取り組んでおります。臨床病理学研究室の教授である水野拓也先生も同制度を利用して、埼玉県と山口県の二重生活をしており、今後、私たちの研究室も大きな変革が訪れるやもしれませんが、これまでの歴史を振り返り、現在の研究室の雰囲気をご紹介させていただければ幸いです。

<研究室の歴史>

当研究室を主宰されている水野拓也先生は、2005年7月に山口大学獣医内科学研究室に助教授として赴任し、そこで指導教員として当時の学生たちと研究を始めたグループが、本研究室のルーツです。当初は、奥田助教授（現 東京大学 獣医内科学研究室 教授）と水野先生という2人体制の獣医内科学研究室でしたが、獣医内科学研究室出身者の平岡博子先生（IDEXX Laboratories 社 臨床病理医）が獣医臨床病理学研究室のポストに入ることになり、内科学研究室と臨床病理学研究室で合わせて内科学ユニットとして教員3名体制でしばらく活動しました。そのあと平岡先生は転出されましたが、学科内組織再編によって2013年から獣医臨床病理学研究室は独立した研究室として活動することになりました。その後同年に准教授として野口俊助先生（現 日本動物高度医療センター大阪 腫瘍科医長）が赴任され、2015年には新棟 iCOVER へ研究室が移動しました。2016年に野口先生が異動され、その後任として、根本有希助教（現 山口大学獣医放射線学研究室 助教）が赴任されました。2019年に根本先生が異動された後、同年に伊賀瀬が助教として着任しました。



毎年恒例の内科との合同 BBQ

新規治療法で難治性がんの犬と猫を救う！

山口大学 と 小動物がんセンター(埼玉) で
数々の新しい治療法に関する臨床試験を行っています



山口大学動物医療センターでの
臨床試験も引き続き実施中です



2024年4月より小動物がんセンター
第3腫瘍内科として活動しています

<研究内容>

当研究室では、臨床病理学の分野に限定されませんが、「Clinic to Bench, Bench to Clinic (基礎的研究と臨床現場の橋渡し)」という目標を掲げ、基礎的研究で得られた発見から、実際の小動物臨床の現場に応用可能である研究を行なっております。

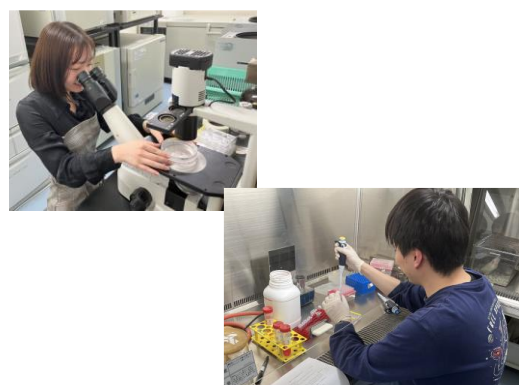
近年、犬や猫のがんの死亡率が高いことが問題となっており、動物医療センターにおいても、多くのがんの動物が有効な治療法を求めて来院されますが、がんの動物の多くがすでに進行期であり、現在の獣医療ではそうしたがんを治癒させることができません。そこで私たちは、動物のがんに対する新規治療法とがんの早期発見のための診断法の開発に関する研究を行なっております。私たちの目標は、現在困っているがんの動物に少しでも早く有効な治療法を届けることであり、そのために基礎的手法から臨床的手法まで幅広い方法を用いて研究を行なっています。

特に、抗体医薬に関しては世界に先駆けて研究成果を残しており、イヌとネコ用の免疫チェックポイント阻害薬である抗PD-1抗体や、イヌリンパ腫に対する抗CD20抗体は、山口大学動物医療センターと日本小動物がんセンターにて獣医師主導臨床試験を実施しております。近い将来、私たちの研究室から日本発の動物用医薬品を世に出せることを目指しています。詳しい内容は、ぜひ当研究室のホームページをご覧ください (<https://mizutakuvet.com>)。

学会での発表の様子



研究室での実験の様子



研究室の旅行の様子



<いまの研究室の様子>

当研究室には、伊賀瀬と水野先生のほかに、大学院生が5人（留学生2人）、学部生が6人、技術補佐員が1人の合計14人が在籍しており、研究室発足以来、最も人数が多くなっています。ご存じの方もおられると思いますが、当研究室のモットーは、「遊ぶも仕事も全力で！」ですので、コロナ禍で一時下火になりましたが、研究室で飲み会やBBQ、キャンプなどを積極的におこなっています。また、学生さんには、研究室在籍中に必ず1回以上の学会発表してもらっており、今年も日本獣医内科学アカデミーや世界獣医がん学会で4人が発表しました。また、学部6年生の1人が書いた論文が国際誌にアクセプトされるなど、遊びだけでなく研究活動も真剣に取り組んでおります。

このように当研究室は独立して10年ほどしか経過しておらず、比較的若い研究室ではありますが、この2、3年でこれまでの研究が軌道にのり、徐々に結果を残せるようになってきました。これも、研究室の学生さんや共同研究している先生方の多大なサポートのおかげだと思っています。この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。そしてこれからも我たちの使命として、多くの犬や猫を救うべく研究に邁進してまいりたいと思っています。

編集後記

青山会会報第五号の発刊が遅れて申し訳ありませんでした。投稿していただきました皆様に感謝いたします。

いよいよ、山口大学共同獣医学科創立80周年記念事業の開催日が近づいてまいりました。共同獣医学部の教官、学生、事務局の皆さんを中心に準備が進められていますが、青山会としても、多くの皆様が参加されるよう、取組を進めてまいります。

さて、ご承知のとおり、ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52か所」で、世界各地の旅行先の中で、山口市が3番目に選ばれました。このためか、秋の行楽期の山口湯田温泉の宿泊施設の確保が難しくなっているそうです。市外から参加させる皆様には、早めの宿泊予約をお勧めします。

それでは、10月26日に「かめ福オンプレイス」でお待ちしています！（酒井，V28）

毎度のことではあるのですが、今回は洒落にならないほど遅れてしまいました。2024年10月の80周年式典、ならびに記念会誌をお楽しみにしていただければ幸いです。（上林，V53）

山口大学共同獣医学部同窓会 青山会

事務局（代表：谷口 雅康）

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学共同獣医学部内 ☎ 083-933-5911

E-mail; [vet-doso@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:veter-doso@yamaguchi-u.ac.jp)

Web; <http://seizankai.vet.yamaguchi-u.ac.jp/>